25-9 特定の分配関係を前提とする資本主義と権利に基づく分配関係

「たしかに、資本は(また資本が自分の対立物として含んでいる土地所有は)それ自身すでにある分配を前提している、と言うことはできる。すなわち、労働者からの労働条件の収奪、少数の個人の手のなかでのこれらの条件の集積、他の諸個人のための土地の排他的所有、要するに本源的蓄積に関する章(第一部第 24 章)で展開された諸関係のすべてを前提していると言うことができる。しかし、このような分配は、人々が生産関係に対立させて分配関係に一つの歴史的な性格を与えようとする場合に考えている分配関係とはまったく違うものである。後の方の分配関係は、生産物のうちの個人的消費にはいる部分にたいするいろいろな権利を意味している。これに反して、まえのほうの分配関係は、生産関係そのもののなかで直接生産者に対立して生産関係の特定の当事者たちに割り当たる特殊な社会的機能の基礎である。この分配関係は、生産条件そのものにもその代表者たちにも特殊な社会的性格を与える。それは生産の全性格と全運動とを規定するのである。」(大月版『資本論』⑤ P1123B4-1124F5)